

健康メモ

難聴

中区医師会理事
広島市民病腎臓科主任部長 井口 郁雄

「ずっと前から聞こえんからもうようならん」と思って治療をあきらめていま



せんか。「友達の補聴器を借りて付けてみただけれど、雑音ばかりで役に立たなかった」と思い違いをしていますか。

難聴は大きく二つに分けられます。慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎などのように手術を受けることによって聴力回復が可能な疾患と、加齢のため難聴になった方のように治療方法

がない疾患です。

中耳炎の手術は、以前と違い随分と進歩し、成績も良くなっています。

鼓膜に穴が開いている方、耳漏を反復する方、真珠腫性中耳炎の診断を受けた方は、耳鼻咽喉科専門医に手術について相談されてみてはいかがでしょう。また、日帰りで鼓膜を

再建する手術も近年普及してきましたので、仕事などで入院ができない方には福音と言えるでしょう。

次に、加齢に伴う難聴のように治療方法のない疾患の方が、補聴器を快適に使いこなすための注意点についてお話しします。人の聞こえの状態は、高い音が聞き取りにくいとか、聞こえるけれども言葉として聞き分けられないなど、そのパターンは千差万別です。服選びの時にサイズ合わせをするように、補聴器も、難聴のタイプ、生活環境、予算などに応じて機種を選ぶ必要があります。そ

の上で、個々の方に合わせて調整をすることが望ましいでしょう。でするので、使う方が必ず実際に補聴器を装着して、いろんな場面で使用してみるのが重要です。売りっぱなしの業者からの購入や、セールストークにひかれた安易な購入はお勧めできません。また、誤った補聴器選びは、難聴を逆に進行させることがあるので注意が必要です。では、安心して補聴器相談するためにはどうすれば良いでしょうか。日本耳鼻咽喉科学会では、補聴器活用に関する専門的な助言・指導ができるように、「日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医」を委嘱する制度を創設しています。相談医のリストは学会のHP上で公開していますので、まず、補聴器相談医を受診することを勧めます。